

雨の観測データに触れる

担当: 重 尚一・大沢信二(地球熱学研究施設)

分野: 気象・気候・陸水・リモートセンシング 定員: 4名

- 本課題では, 雨に関連した様々な観測データに触れる.
- レーザ式降水粒径速度分布測定装置(図1)で得られた雨滴の大きさを表す粒径分布データや気象レーダで得られた高時間・高分解能の雨の水平分布を, プログラムを作成して可視化・解析するとともに, 関連する英語文献の輪読を行う(担当: 重).
- 岩石の化学風化の要因などとして知られる大気CO₂を吸収した(する)雨について, 大気CO₂濃度等の連続測定と気象観測(図2)によって得られる多種類のデータの総合的な解析を通して雨へのCO₂吸収過程の存否確認や発生条件などについて考察する(担当: 大沢).



図2 観測は別府温泉に位置する地球熱学研究施設本館屋上で行われており, 測定項目が逐次増やされる予定である.

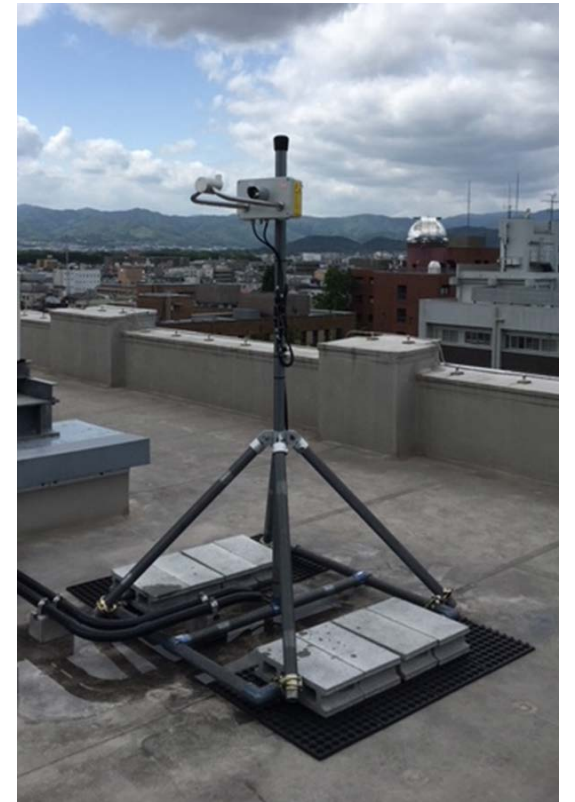


図1 理学部1号館屋上設置のレーザ式降水粒径速度分布測定装置